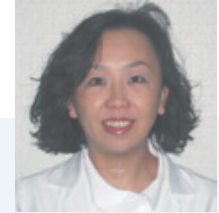


》 ライフサイエンス

不妊治療効率向上を目的とした月経周期ごとに子宮着床能を評価する装置の開発

医学系研究科 産科学婦人科学

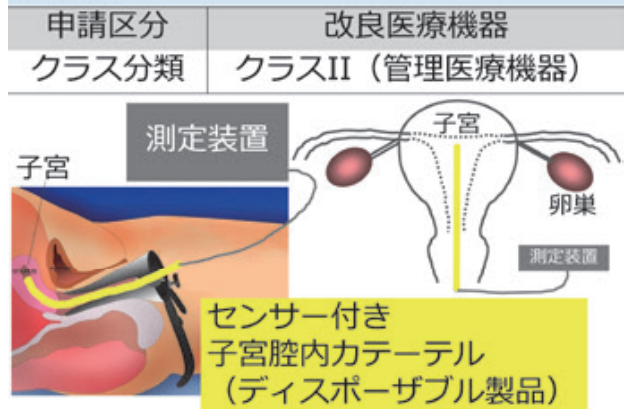
教授 木村 正 助教 中村 仁美



▶ 特徴・独自性

日本は生殖補助医療の年間実施件数が世界で一番多い国の1つである。2016年における年間総出生児数に対する生殖補助医療により出生した児の割合は5.4%に到達した。現在の生殖補助医療の治療効率を向上させるためには現在ブラックボックスである受け入れ側の子宮の着床能を前方視的に評価し、その周期ごとの治療方針に反映させなければならない。これまでそのような装置はなかった。我々の基礎研究において発見した知見を診断機器に応用し、できる限り既存の医療機器を用いて行った臨床研究において、ヒトにおける基礎概念実証を行った。

製品イメージ：



▶ 社会実装と実用化への可能性

実用化のために最終設計したセンサー付き子宮腔内カテーテルの性能評価、自然月経周期内における変動について経産婦ボランティア被験者を対象とした臨床研究にて検討予定 (EDUR study)。既存技術を新規効能のために改良したものであり、国内外に他に競合するものがない。

特許 腔評価装置及び子宮評価装置 PCT/JP2015/001708 , US 15/129,783 他 1 件

論文 Vaginal bioelectrical impedance determines uterine receptivity in mice. Hum Reprod. 2018. 33(12):2241-2248 他

参考 URL <http://www.med.osakau.ac.jp/pub/gyne/www/>

キーワード 医療機器、不妊症、子宮、着床、生殖医療